□本記念號に登載のため、諸名家より惠送せられたる追憶文は、本號に全載する筈でしたが、何分紙數に制限があるため、乍遺憾次號以下に廻したものがあります。決して御好意を無に致しませんから、惡しからず御諒察下さい。

□紀念號は、大下氏逝去のあとかたづけや、「みづゑ」一存續可否の問題やで、混雜の際に編輯と印刷をしたのですから、發行期日も遲れましたし、體裁も整は無いかも知れませんが、內容は諸名家の文章で、光彩を放つて居ることと信じて居ます。

□次號には三宅、石川、瀧澤、寺田、四氏の水彩畫を原色版となし口繪に挿入し故大下氏遺稿、文部省美術展覽會批評、其他諸名家の美術講話、紀行文等を以て滿載し來る十二月三日、從前通り發行致します。

□大下氏逝去されたに就いて日本水彩畫會や同研究所も共に廢滅せしかとの御尋ねを時々受けますが、決して其樣なことはなく、依然として同會や研究所に何の異りもありません。

□會友諸氏の批評畫は會友規定により從前の如く本會へ御送り下さい、今迄と少しも變らず親切に取扱ひます。

□橫濱水彩畫會では、大下藤次郎氏の遺作展覽會を兼ね、十一月十一、十二の兩日を以て、會員諸氏の作畫をも陳列し、弘く縱覽を許しました、委細の通信は次號に載せられるのでせう。

□滿谷國四郎氏ば本月八日研究の目的を以て渡歐の途に上らる、見送り盛なりき。

□大下氏逝去の報に接し各方面より贈られたる總ての金員は之を水彩畫の發展の資に供せんため日本水彩畫會研究所に寄附せらるべしと。

□第五回文部省美術展覽會は去月十五日より上野公園に於て開かる、水彩畫は前回に比し甚だ小數にして日本水彩畫會よりは赤城氏一、水野氏二、後藤氏一、故大下氏一の計五點なり、因に同會は來る十九日を以て閉會し出品を京都府に移し京都府は十一月二十五日より之が開催をなす豫定なる由。

□問に答ふ。讀者の領分其他の寄稿は次號より號を追ふて揭出することに致します。

□來春號よりは眞野氏の透視畫法、スタヂオ紹介等を揭載して、大いに新裝を賑はす考へで居ますから盛に御愛讀を願ひます。

## 紹介

『水繪叢誌』上編

一部實費送料共二十五錢

牛込區水道町五三東京洋畫材料供給會發行

水繪材料の栞の改題されしものにして故大下藤次郎氏之を校訂さる。表紙、製本等粗末なれども一般洋畫の極大體の描方其他に涉りて記述し、美術展覽會、同規定、美術學校、研究所の案內等は精細を盡し就中水繪具の話、水繪具色見本は百餘色の色を一々實物を以て染め、貼付せし等、其精力の程實に驚歎の外なし其他

紙見本も之に等しければ學者の參考に資すべき良書たるを疑はず。……因に本書は去月發行の處見本貼付に非常なる手數を要せし由なはば、一時に送本せられざるべし。

▼春鳥會便利販賣部▲ は元東京洋畫材料供給會と稱せしが今般其の組織を革め、同時に春鳥堂と號し專ら本會の讀者、會友よりの注文依頼に應じ一層確實に販賣をなせば同所より購買せらるゝが確實なる可し、詳しくは廣告を見られたし。

△桂淵畫會▽ 眞野紀太郎氏主催の同會は既報の如く肖像畫、水彩畫、風景、靜物等の揮毫の依頼に應ぜられつゝありて依頼者の好評頗る高し、尙ほ本誌讀者には特に好意を以て、申込に應ぜらるゝ由なれば有志の方は此際申まれたしと。

## 注意

『みづゑ』第八十二號は來る十二月三日發行仕るべければ前金切れ等の方は至急御拂込相成度此段御注意申上候

## 謹告

父大下藤次郎儀死去の節は早速御鄭重なる御弔文を賜り難有奉存候、就ては一々御禮可申上筈の處、混雜の際とて御芳名記入漏れ等有之やも不計候故、畧儀乍ら謹で茲に紙上を藉りて御禮申上候

尙ほ一旦廢刊と相定め申候『みづゑ』も大方諸氏の御熱望と御助力により再び繼續發行仕る事に改め候に付いては父生前の事業を繼承し必ず遂行仕る可きに付き爾後は何卒應分の御助力と御愛顧被下度此段併せて御願ひ申上候

四十四年十一月　日

大下正男